

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300014		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム みすず (2ユニット)		
所在地	岡山県津山市瓜生原326-1		
自己評価作成日	平成21年11月18	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390300014&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「なんだかほっとするね みすずをたずねてみませんか?」という理念のもと、利用者様やご家族に安らぎをご提供することを大切にして運営しております。
 開設3年目を迎えた今年度は、ご家族との関係を深めること、職員の介護技術・知識の向上を目標に掲げ各行事、研修など計画・実施してきました。
 特に、今年度から始めた「ご家族へのたより 生活の記録」は、ご好評を頂いています。日々の献立や身体的状況に加えて写真を2~3枚添付してご送付しています。
 ご家族参加の行事も増やし、利用者様とご家族と一緒に過ごすことが出来る機会をご提供してきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの特長は、何だかほんわかと心温まる空気を感じる。利用者は2つのユニットを歩き来して男女利用者で楽しい時間を長く過ごしている。この2つのユニットを行ったり来たりする道程は一寸大変なのに、その苦労も楽しみ陰に消えてしまうほどである。従って両方の職員も全部の利用者を良く知っており馴染み深い。2つのユニットの管理者も男女であるが、気心も知れて良く話してホームを良くしていこうと頑張っている。4年目になっても職員がよく定着している。職員も資質向上のためよく勉強するようになった。「なんだかほっとするね みすずをたずねてみませんか」の理念にぴったりのホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に掲げ職員全員が見ることが出来る場所にある。管理者は、職員の行動規範として常に理念の実現を念頭に指導に当たるよう求められている。	管理者は、職員に年度の反省と次年度の目標を立てて貰い、理念に沿ったケアが出来たかどうかを確認し、常に意識を持って業務に当たる様指導している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年一回、周辺自治会が主催する祭りには利用者様とともに参加し地域の方々とおふれあう。行事の際、地域婦人会の銭太鼓を披露していただいている。地域の店に買い物に行く。	母体施設に併設しているため、地域とのつながりは環境的に困難なものがあるが、法人内の行事等には積極的に参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議で認知症介護の話をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で話したことをもとに、サービス向上を目指している。今年は緊急時の通報方法や看取りに関する指針などにアドバイスを頂いた。	2ヶ月に1回各委員も良く出席して開催している。家族の出席が少ないと聞いた。ホームの行事等に合わせて開催する等、今後のあり方を発展的に考えて行こうとしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修会に職員を派遣したり、研修委員を務めるなど協力している。市職員にGH職員研修の講師など依頼している	市内グループホームの研修会で事例発表を依頼された事があり、日頃からサービスの取り組み等よく理解して貰っている。よき相談相手にもなって貰っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとして、日中は常に玄関を開放している。BPSDに対しても出来る限り利用者様の気持ちを理解し対応するよう心掛けている。	県の小冊子を活用した内部研修を行い、職員一人ひとりの認識を深めている。やむなく居室の掃き出し窓口にチャイムを付けた事があるが、家族には説明し、了解を得て設置した。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	市の包括支援センター職員に依頼し研修会を開き虐待についての知識を学ぶ機会を持った。毎年続けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者一人ひとりを大切に思いながら、介護するよう心掛けている。権利擁護制度に関しては次年度に研修の機会を設けたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があった場合速やかに連絡し、必要があれば再度同意の取り直しもしている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時に加えて、行事にご家族が参加していただけた際に説明を行い、その場で意見聴取も行っている。 利用者様からの要望は日常的な会話や地域推進会議などで聴く努力をしている。	家族の面会時や電話で情報交換を行い、訪問困難な方にも「たより」を活用し、広く意見を求めている。家族の言葉から考えている事を出来るだけ拾い上げる努力をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、介護業務についての意見を考える時間を設けている。	年に一回は管理者と職員が向き合い、評価目標シートを活用しながら、どんな努力をしたのか、又、今後の目標等を聞き、職員の思いや意見を十分聞く様にして、その中から運営の改善に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、1～2回責任者と各職員がマンツーマンで話をする時間を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修会の開催、外部研修会への参加を各職員年に1～2回は参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホームの介護を考える会」主催の集まりに出席し、ネットワーク作りに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所された方には特にお話を聞くように心掛けています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの様子を電話連絡し安心していただいている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に当サービスを利用することが適切かどうか検討させていただいている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを通して共同生活を送るようしている。掃除のぞうきんがけや食事の片付け、つるし柿やゆず味噌造り、梅干しなど季節に合わせた取り組みを日常生活の中でしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や推進会議等を通じてご面会の機会を増やす努力を行っている。家族とご本人の関係に直接的に関わっていない場面もあるので、今後の課題である。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	空家となっている自宅へ一緒に同行したり、配偶者の法事に参加できるように送り迎えするようにしたりしている。これらをこれからも徐々にしていきたい。	家族と一緒に昔の写真を見ながら思い出話をしたり、職員もその中から利用者の思いを引き出す等、出来る事から実行していきたいと考えている。	どんな立場になっても、大切な人や懐かしい人との関係は切り離せない事だと考える。家族の協力と理解を得て、生活歴の中からもっと把握していく作業を期待している。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士の座席には配慮したり、外出時の配車など気を遣っている。関係が悪い利用者様同士も気を付けながら、関係改善に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族からの相談を受けたり、退所直後にご面会に行く等、その生活がうまくいっているか配慮している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話から利用者様の意向を汲み取る努力をしている。ご家族が来訪した時は、ご家族からの情報にも注意して耳を傾けている。	本日のメニューとは別のカレーを食べたいと希望して、一人カレーを食べていた利用者がいた。可能な限り、一人ひとりの行動や日常の中から思いを把握して対応していく努力をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的な会話やご家族からの情報は職員間で共有するよう努力している。生活歴をまとめる書式の導入など検討中。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりそれぞれの切り口から利用者理解に努めている。チームとしてもっと個人の思いを理解してケアにつなげていきたい。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、管理者が主として介護計画を作成しているが、ミーティング等で職員共よく話し合っただけで日常のケアに活かしている。	介護計画作成担当者が介護日誌・経過表・申し送りノート等に目を通しながら作成している。半年に一回の見直し、緊急必要時はその都度カンファレンスを行い、見直しプランを作成する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや医療に関する情報を共有する努力をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の健康状態に応じて代替え食を用意する等の取り組みは実践できている。自由な発想で柔軟な施設運営はこれからの課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一つの大きな法人の中でグループホームを運営しているので単独での行動は考えていない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を重視し、入所時には極力今までのかかりつけ医を継続することを訴えている。かかりつけ医への受診には基本的にはご家族で対応していただいているが、GHでの生活が分かるような書式を記入している。	定期的な往診の他、週一回健康チェックを行う医師の来訪がある。又、訪問看護師の派遣等、法人の協力がある為、家族・利用者・職員も安心出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週1回訪問していただいている。その際、情報交換が出来るように書式を工夫している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を書面、もしくは口頭で行っている。入院中もご家族の希望があれば洗濯物などの便宜を図っている。また退院時はお迎えに行くなど支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化が予想されるときには、ご家族の意思を十分確認する機会を設けている。かかりつけ医、訪問看護師とも連携しGHでの生活が安心して送ることが出来るよう配慮する事となっている。	継続的医療行為が必要な時は他機関へ紹介し、又、その都度家族の意向を確認しながら主治医と連携を図って方向を決めるようにしている。介護度5の人も積極的に受け入れる方針であり、職員もしっかり理解している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているが、万が一に備えて、救急通報訓練と救急法の講習に毎年参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は毎年行っているが、それ以外の風水害に対する計画等は法人全体としての対応に従う。	法人のマニュアルに沿った火災訓練は全体で行っている。色々な災害をシミュレーションした対策を講じていく必要が、今頃の気象環境になっている事を考慮して欲しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを大切に思いながら介護するよう心掛けているが職員間でのばらつきがあるので、指導・教育の必要性を感じている。	暑いから夏のブラウスに着替えたいと訴える利用者に時間を掛けて向き合い、本人の世界を否定する事なく納得して貰った現場を見た。又、尊厳を持った声掛けがどの職員も実践出来ていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	迷ったときは利用者の意見をよく聞くよう指導している。また、表情や仕草にも注意するようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を優先するよりも利用者お一人お一人のその時の気持ちを優先する用心掛けている。入浴順や食事のメニューなど出来ることは臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めや化粧などの介助をしている。なじみの散髪屋への外出介助も行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の筋を取ったり、焼きそば作り、片付けなど一緒にしていただいている。	「わしも盛り付け位手伝う事もあるんで」という声があった。皆が出来る事で関わり、一緒に食べるという毎日の営みは、ホームの中の最高の楽しみであることを共通認識している事が分かる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お皿をワンプレートにする。寒天ゼリーを作って毎日食べる。飲み物の種類を変えたり、増やすことも考える。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕2回食後に口腔ケアを行っている。義歯を使用している方も定期的に洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。 トイレ誘導の時間を決めて失敗を減らしている。	おむつを外そう運動は継続している。紙パンツ・紙パットを状態に合わせて使用しているが、出来るだけトイレを使用して貰うように排泄記録を基にした時間誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天ゼリー、ヨーグルトを毎日提供している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施している。夕方に実施しているが、夜間入浴等の提供はこれからの課題である。	清潔をモットーとし、可能な限り毎日実施している。身体機能低下により長時間入浴拒否していた利用者に対し、職員が奮闘して実施にこぎつけた事例があった。以来利用者は入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態、生活習慣に応じて休憩時間を設けている。体調を見ながら休息への声掛けを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している薬が分かるように、個人ファイルに薬の説明書を綴じて職員全員が見ることが出来るようにしている。服薬支援、症状の変化を観察するよう努力している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たばこ、お酒は健康状態に支障のない程度に提供している。気分転換のために散歩を行って利用する利用者もいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの立地している場所も法人内の山の中にあり、ここを散歩したり、他のユニットを訪問する事だけでも結構外出に当たる。「山を歩くだけでも結構疲れるで」と利用者は言っている。	全体的にケア内容が深くなり、実施困難な状況になりつつある中で、管理者は閉じこもり対策を重点的に考えて行こうとしている。リビングの掃き出し窓から一歩出れば自然環境が十分整っている。	自然環境を活かした外出の楽しみ方の工夫と、今ある環境をもう少し整備すれば自由な散歩がもっと楽しめるのではないかと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を重視し、ご家族と話し合っ て現金を持っていただいている。買い物やパ ン屋来訪時に現金のやりとりをしていただ いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、準備物を用意している。 電話も相手先の都合が良ければ対応してい る。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やトイレなどに花を飾り季節感を感じ ていただくよう努力している。利用者様が分 かりやすいように場所を示すなどの工夫をし ていきたい。	広く清潔な廊下に続きリビングがあり、明る く、開放感を感じた。全員が暖かく憩えるホー ム炬燵を置きたいと、調達に奔走している が、実現には今少し時間がかかりそうだと の事。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	仲の良い利用者様同士の座席に配慮する ようにしている。ソファを利用して居場所の 工夫を行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	居室では転倒防止など安全に配慮してい る。ご家族やご自分の写真を飾ることはして いるが、なじみの家具や思い出の品などの 持ち込みが少ないので、ご本人、ご家族と 相談していきたい。	適度の採光と清潔感があり、室内の転倒防 止の安全性は十分保たれていた。タンス・家 具の持ち込みをして、落ち着ける雰囲気作り が出来ていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	居室及び居室からリビングルームに出る所 は広いスペースがあり安全に行動が出来 る。トイレやご自分の部屋が分かるような 工夫をしていきたい。		